

山 層 雲 峡 ビ ヅ タ セ ン タ ー



【北鎮岳とチシマツガザクラ / 雲ノ平 8月】

花雨の頃

今年は6月から8月にかけて本当に雨が多く、ここ十数年のなかでも記憶にないほどでした。

この長雨で山の花の開花状況にも影響が出るのではないかと心配しましたが、多少の開花期のズレがあったものの概ね順調で、稜線を一際美しく飾る花々の溢れ出すようなエネルギーを前に感嘆するばかりです。

* 「花雨・かう」・・・花の咲くころに降る雨。花に降る雨



【雨雫に映るフキユキノシタ】

山の奥



今月のチビターおは
エゾシマリス
です



温泉街に出没中♪

いちじゅいませえ



ヒグマの フィールドサイン

これからの季節は、登山やキノコ採取など、山や森に入る機会が増えてきます。しかしキノコや木の実はなるような場所はクマの生息域と重なる場合もあり、突然の遭遇を避ける為にヒグマの痕跡を知り、事前に対処することが大切です。



①ナナカマド糞



②コクワ糞



③古い爪痕



④新しい爪痕



⑤齧り跡



⑥足跡

よく見かける痕跡としては①糞です。高山帯ではハイマツやナナカマドの實を食べた糞が多く、山麓では②フキやヨモギ、木の実などがほとんどです。黒ずんだ糞は数時間から数日が経過した場合が多く、排泄したばかりの糞は食した物の色が褪せないままで残されています。こういふ場合は、まだ周辺にクマがいる可能性が

あります。③④は立ち木に残る爪痕です。これらには山ブドウやコクワの蔓が絡んでいる事が多く、クマは實を食べようと木に登ります。③古い爪痕は黒ずんでいますが、④新しい爪痕は真新しい樹皮の色をしています。仔グマが木の上に登っていて親が近くにいる事も考えられます。

⑤齧り跡は、自分の存在やなわばりを誇示し、他のクマなどに知らせる痕跡として標識や杭などに付けられます。⑥クマの足跡は人間と同じ様に踵をつけて歩きます。写真上は後ろ足で踵がついていますが、写真は前足です。爪痕がはつきり残っています。以上紹介したクマの痕跡例は、ほんの一部にすぎません。野外では痕跡が見つけない状況もありますが、見つけた際には素早くその場から立ち去ることが第一です。実りの秋、頻繁に動き回るクマに出遭わない為にも、クマ鈴、笛、クマ除けスプレー、鉈などを持ち歩き、単独行動は避けましょう。クマにとっても人間にとっても不幸な事故とならない為に...

大雪山高山帯における オバシギの初記録

2009年8月12日、午前11時30分頃、大雪山小泉平〜板垣新道分岐間(標高2030m付近)の風衝地で、オバシギ5羽を確認しました。

5羽のオバシギは一定の距離を確保していれば逃げることはなく、常に道沿いを小走りに歩いていました。また同じ所に戻るといった行動が何度かとっていました。時折「クイツ・クイツ」と鳴き声を発していましたが、採餌行動などは観察できませんでした。

オバシギは旅鳥として各地の海沿いや水田に生息しますが、大雪山高地での確認は初記録です。語源は「尾羽鳴・尾羽が目立つシギ」というのが有力とされています。



【オバシギ/大雪山 8月12日】

森のたね

景勝地探訪シリーズ③

大雪山麓を歩く ～秋の紅葉谷～

日本で一番早く紅葉する大雪山。山の賑わいが一段落する9月下旬になると、今度は層雲峡温泉紅葉谷の樹木が色付き出します。最近、層雲峡周辺の数ある紅葉ポイントの中でも華やかな色彩と静寂さを保つ溪谷の散策路として、にわかにクローズアップされてきました。今回はそんな紅葉谷を紹介します。

温泉街からユース hostel 方面に向かって1 kmほど行くと、旧日赤旭川病院層雲峡分院があり、車を止め看板から歩き始めるとすぐに幅が狭い樹林帯の散策路入口となります。周辺はトドマツ、エゾマツの針葉樹とミズナラ、イタヤカエデなどの広葉樹からなる針広混交林が広がります。コースは赤石川沿いに続き、やがてクマゲラ広場に出ます。(周辺はクマゲラの生息地で、採餌木なども観察できる)

広場からほどなくすると二股に道が分かれ、右側コースを進むと苔むした大きな「オンコ岩」に出会います。眼下に赤石川を望み、コースは間もなく急登になり、左側に柱状節理の絶壁が見えて



【紅葉谷散策路入口にある九十九沢の紅葉】

きます。切り立った函状の絶壁が迫り、正面に滝が見えてくると、コース終点の紅葉滝に到着です。函状の岩壁から流れ落ちる滝は間近で迫力があり、周辺ではミネカエデ、カツラの黄葉を見ることができます。帰路は往路をたどります。(紅葉期は例年10月10日前後。ハウチワカエデ、イタヤカエデなど九十九橋～散策路案内看板までの区間が最も見ごたえがある)

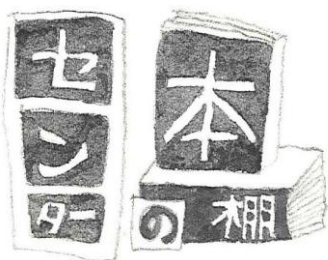
🍁 紅葉谷コースタイム 🍁 (片道約1、2km)

- ①紅葉谷散策路→(0,1h)②クマゲラ広場→(0,1h)
- ③オンコ岩→(0,1h)④紅葉滝

～紅葉期～

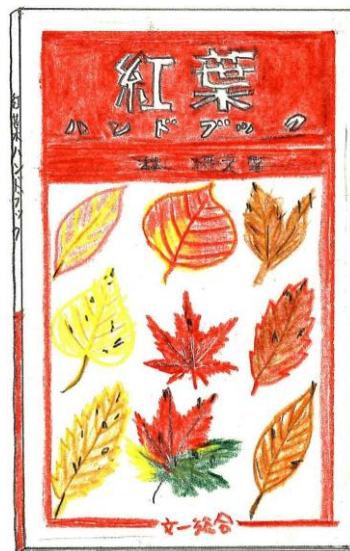
層雲峡峡谷／例年9月下旬～10月上旬

紅葉谷／例年10月上旬



紅葉ハンドブック

林 将之
文一総合出版



「センターの本棚」は身近な自然にふれる本を紹介しています。図書は館内で閲覧できます。



大雪山高地の紅葉は9月上旬に始まり、約ひと月かけて山麓までおりてきます。高地で紅くなる主な樹木はウラジロナナカマドですが、かなりの方がこれをカエデと勘違いしている節があるようです。また‘紅’葉だけではなく、黄色く‘黄’葉するダケカンバなどもあり、大雪山の秋は多種多彩。

「この葉はどんな色になるのかな？」と、色づく樹木の顔を覚えるといっそう楽しみも広がります。今回は野外でも使える「紅葉ハンドブック」を紹介します。掲載している樹木数も多く、ワンポイント説明も充実しているので野外で使う本としては手軽でベスト。「紅葉＝もみじ」だけではありません。繊細で個性豊かな色彩の世界をのぞいてみませんか？



★★観察会は事前申し込みが必要です★★

★★詳細についてはお問合せください★★

まじゅうとよは
スライド上映会
16:00より



【日時】9月12日～10月12日

13:30～15:30

折って切って開いたら、あらすテキ♪
子供から大人まで楽しめます。

いきものカレンダー

- 7/1ヒメウスバシロチョウ・オオジシギ(上)、7/2コマクサ(赤)、7/5アオバト(層)、7/6キバナシャクナゲ
- 群生(黒)、7/8ミヤマクワガタ・ヤマコウモリ(上)、7/11ウコンツギ(黒)、7/15タカネスミレ(赤)、7/17コエゾゼミ(上)、7/18ナキウサギ・ホシガラス(黒)、7/19クルマユリ・オオウバユリ(上)、7/23オオイチモンジ・コムラサキ、8/2エゾシカ親子(上)、8/6チシマギキョウ・クモイ lindウ(白)、8/7エゾトリカブト(上)、8/8ヒツジ草(浮)、8/9シマリス・ジムグリ(上)、8/15ウラシマツツジ草紅葉(黒)、8/16親子グマ(白)8/18チゴハヤブサ(上)、8/20キリギリス(層)、8/23エゾアジサイ(層)* (観察地は頭文字の記載上川・黒岳・層雲峡・赤岳・白雲岳・浮島)

■ 三国山観察登山

【日時】9月6日(日) 8:00～16:00
 【内容】太平洋、日本海、オホーツク海。その3つの海をわける唯一の分水嶺となっている三国山を訪れます。
 【募集】15名
 【集合】ビジターセンター
 【持ち物】登山装備・昼食

■ 季節の自然散策会

【日時】9月・10月の毎週日曜日
 9:00～12:00
 【内容】紅葉の季節、層雲峡周辺の身近な自然を案内いたします。
 【募集】各回5名
 【集合】ビジターセンター
 【持ち物】歩きやすい装備、飲み物

■ 大雪山フィールドノート ～写真展～

【日時】常時展示
 【内容】一年を通じた大雪山のありのままの姿を写真と解説文で紹介する。
 【場所】ビジターセンターレクチャールーム

発行:大雪山国立公園

TEL 01658-9-4400 / fax 01658-9-4401

HP アドレス <http://sounnkyovc.town.kamikawa.hokkaido.jp/>

開館時間 6月～10月/8:00～17:30無休・入館無料
 11月～5月/9:00～17:00月休(祝祭日翌日)

空を開けると夏の空気が秋の空気に入れ替わっていた。騒々しいほどの蝉の鳴き声は止まり、日に褪せたピンクと黄色の草むらの下ではコオロギやキリギリスがギーギー鳴き続ける。こうしてまた季節は唐突にやってくるのだ。

風物誌